

「ガイドライン見直し」は、戦争準備！

◎昨年四月、日米安保条約の「再定義」がなされ、ついで、今年の秋までには「ガイドライン（日米防衛協力のための指針）の見直し」が行われます。

◎この「見直し」とは、「縮小」のためのものではなく、日米共同作戦計画の全面改定：拡大：なのです。

◎その証拠に、昨年四月の安保再定義の時の、橋本首相等の共同宣言の中には、「アジア太平洋」という言葉が繰り返されています。

その意味は、日米安保というものの、実際は、日米が協力し（韓国も入る？）アジアを再び支配しようとする狙いがあるからなのです。

つい八月末にも、前梶山官房長官が「日本周辺有事に、台湾も含む」と口をすべらし、橋本首相は、その直後、訪中し、「台湾のことは、中国の方が考えること」と逃げたことは記憶に新しいことです。

◎そして、この「ガイドライン見直し：日米共同作戦計画拡大」の一環として、この浜松基地に、AWACS（空とぶ司令塔）が、九八年三月に二機、さらに九九年三月に二機の配備が予定されているのです。

◎皆さん、このように、この浜松が、「ガイドライン見直し」の下に、今、戦争準備に組み込まれ、進みつつあるのです。

◎私たちは、この状況を、これ以上、見過ごすことはできず、まして、戦争協力に加担するわけにはいきません。平和を愛する皆さんと共に、声を大にして反対するものです。

「一九九七年九月十四日（日）第三六七回・憲法を守る平和行進」
「浜松市憲法を守る会」
「事務局 浜松市紺屋町三〇一〇十五」
「」